

## 石油化学基礎原料用タンクのスペース賃貸事業について

### ～ 知多製油所を石油化学基礎原料用ターミナル基地として活用 ～

1. 当社(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:高萩光紀)は、知多製油所(所在地:愛知県知多市、所長:岩村信雄)の現有設備の有効活用および石油化学基礎原料(以下「石化原料」)の安定供給体制の整備を図ることを目的として、このたび、同製油所を石化原料の輸出入機能を備えた大型ターミナル基地として活用することといたしました。
2. 具体的には、同製油所にある燃料油用タンクのうち1基(27,000KL)を石化原料用に転用するとともに、石化用としては国内最大となる10万トン級タンカーまで入出荷できるようバース(船舶用停泊施設)を整備し、来年1月から本格的に貯蔵・出荷用として当該タンクのスペースを第三者に賃貸いたします。
3. 知多製油所は、2001年6月に原油処理を休止して以来、石化原料の製造および燃料油の油槽所・出荷基地として稼働しておりますが、既存の大型出荷バースや大型タンク等があるため、これまで当社はその有効活用策を検討してまいりました。
4. 一方、主要な石化原料であるBTX(ベンゼン、トルエン、キシレン)のわが国の生産能力はアジア最大であるにもかかわらず、そのオフサイト設備(タンク能力、バース能力)が脆弱であるため、従来から在庫調整機能を有する貯蔵基地の必要性が指摘されておりました。
5. 特に、トルエンについては、その需給動向がエチレンや誘導品プラントの稼働状況によって大きく左右されるとともに、最近アジアの需給がタイト化していることから、需給の緩衝材かつ輸出入基地として機能する大型ターミナル基地の需要が見込まれております。
6. こうした状況の下、当社は、知多製油所において石化原料の受入・出荷および管理業務の請負を含めたタンクスペースの賃貸事業を行うこととした次第であります。なお、取扱品目につきましては、当初トルエンのみとなりますが、今後順次拡大していきたいと考えております。

以上